

同窓会は鳥羽小を応援しています

越前市白山小学校とのオンライン交流会



入学式

鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために



令和6年3月
第33号
鳥羽小学校同窓会



新入会員紹介

～令和五年度卒業生～

学校のウェブサイトで過去の会報(第17号以降)や学校の近況をご覧になれます!
<http://edu.town.wakasa.fukui.jp/toba-s/> または「若狭鳥羽小」で検索



ご挨拶

同窓会長

高橋 繁 応

(昭和42年度卒)

新年早々福井県の隣県である石川県の能登地域で大規模な地震が起き、甚大な被害が発生致しました。その悲惨な状況は連日メディアで報道され、心を痛めるばかりです。また、毎日のようにウクライナやパレスチナでの惨状が報道されていますが、ニュースで見聞きするだけでは今の世で本当にこのようなことが起きているのだろうかと思いたくなるような気持ちになります。

しかし、今となつては我々戦争を経験していない世代の者にとつては知り得ないことではあります。が、わずか一世紀足らず前の日本もウクライナやパレスチナの現状と同じような惨状だった時期があったようです。度々の空襲を受けて焼け野原になった都市部はまさに今メディアで報じられている地域のような有様だったことが想像されます。

若い頃に戦時を体験している私の母はテレビで報道されるニュースを見ながらことあるごとに『戦争だけはいやや。』とつぶやいています。死んだ祖母から聞いた、町の人が買い出しにこられて畑の半分腐りかけた力ボチャを売ってほ

しいと言われ、『その力ボチャはもう腐りかかっているからあげる』と言うと本当にうれしそうにして、何度も何度も頭を下げて持ち帰られたという昔の話をよく思い出します。食べ物の何割かを残食として捨ててしまっている飽食の国日本でも本当にそんな時代があったのです。平和に慣れきつてしまひ、ともすればこういう時代があったことを忘れてしまいがちですが、日本にもわずかに百年足らず前にそんな時代があったことを忘れてはならないと思っています。

昨年十一月に、二十五年前に小学校創立百周年記念行事の一環として埋設されたタイムカプセルの開封をいたしました。当日は天候にも恵まれ、子どもたちの歓声の中で当時のまま残された手紙や児童の作品などが出てきました。その当時、地域の皆さん方からタイムカプセルに入れる手紙を募集しており、私の手元にも自分が書いたことさえ忘れてしまっていた手紙が届きました。読んでみると私の父と妻の父が相次いで亡くなり、慌ただしい一年だったことが書かれていましたが、二十五年も経った今となつてはどんな一年

だったのかも思い出すことができないくらい曖昧な記憶しか残っていません。

あれから二十五年、四半世紀が過ぎました。その間に地区の真ん中に舞鶴若狭自動車道が通り、インターチェンジもできて鳥羽谷の景色もかわりましたが、今日まで平穏な日々が続いて来ました。

これまでに学校からは多くの児童が巣立ち、今回もその卒業生数名から玉稿をいただきました。読ませていただく各位がそれぞれの地でそれぞれの人生を歩んでこれたことを読み取ることが出来ます。

日々のニュースでは各地の紛争や災害による死者数が淡々と報道



ご挨拶

校長

高橋 彰 男

(昭和51年度卒)

鳥羽小学校同窓会員の皆様方にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、心よりお礼申し上げます。

私は、昨年四月に鳥羽小学校に赴任いたしました。これまで、担任として五年、教頭として二年、

されていますが、その一人ひとりにはそれぞれの人生があり、肉親を失った人達の数多くの悲しみが存在するのかもしれないと思ふともやりきれない思いがこみ上げて来ます。それとともにあらためて日々の平穏な日常のありがたさを感じる毎日です。

私事ですが、二年間鳥羽小学校同窓会長という重責をお預かりいたしました。皆様方には日頃から物心両面について本会へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。鳥羽谷の今後の平穏と各位のご多幸、並びに鳥羽小学校の今後益々の発展を祈念し、ご挨拶に代えさせていただきます。

そして今回の勤務と三回目の勤務となります。その他、自身の小学生として六年間、PTA会員として十六年間、さらに父も鳥羽小学校で職員として勤務していたこともあり、今年、還暦を迎えるにあたり、私の人生の四十数年間は家族の誰かが鳥羽小学校と関わりを持っていたことになり、不思議な縁を感じ

じずにはいられません。

さて、今年度はここ数年猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着き、五月に五類への移行がなされました。これに伴い、今年はある意味、旧来の学校のスタイルに戻す一年であったように感じております。感染症の流行に伴い自粛していた、儀式的行事での来賓案内や全校集会、対話を中心とした授業、ランチルームでの対面給食などを再開しました。その一方で、これまでの教育活動をそのままに戻すのではなく、それぞれの見直しを図り、改善を図りました。例えば校内体育大会である鳥羽リンピックでは、入場行進は復活させた一方で、五月下旬の気候を考慮し、半日開催を維持しました。

こうした変化を遂げた鳥羽小学校は今年、百二十五回目の卒業式を行いました。これは明治三十二年の鳥羽尋常小学校創立から百二十五年の歴史を刻んだことを意味します。

これに関連して、昨秋には、創立百周年記念事業として埋設されたタイムカプセルが二十五ぶりに開封されました。中から出てきた当時の児童の作品や地域の皆様が二十五年後に宛てた手紙、当時の写真や教科書などを、開封に立ち会った現在の全校児童が興味深く見入る姿がみられました。

ところで、現在、鳥羽小学校で

は教育活動の柱の一つに「ふるさと教育」を据え、それぞれの学年の実態に合わせた活動を行っています。その中でも五年生ではコウノトリの探究活動、三年生は山内

かぶらの栽培、六年生はモスバーカーとの遠隔授業をもとに、地域の農家や小売業者、料理家を学校に招き、相談しながら山内かぶら等地域食材を使ったご当地バーガーづくりに取り組むといった活動を展開しています。その成果として、先日実施された学校評価では、「鳥羽のよいところを見つけることができた」と答えた児童が九割を超えました。このふるさと教育を推進していくことで、将来の鳥羽を考え、担っていく人材が今後生まれることを期待しています。

同窓会員の皆様方には、鳥羽小学校での教育活動に對しまして、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸、そして、本会のみますの発展をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。



在日二世の同級生

森 下 健

(昭和33年度卒)

気持ちのいい秋晴れの下で玉ネギとニンニクを植える準備をしていたら、子供たちの小学校時代にはご縁の無かった高橋繁応先生が突然畑まで訪ねて来られた。ボクとはフェイスブックで繋がっていて、普段から親しくさせてもらっているが、お聞きしたところ、現在同窓会の会長を勤められていて、それへの寄稿の依頼だった。手土産に好物の栗を頂いたのではお断りするすべもなく、まんまと作戦に引つかかってしまった。

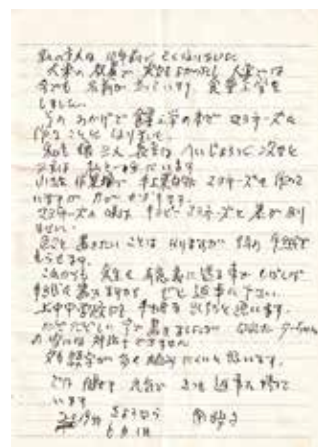
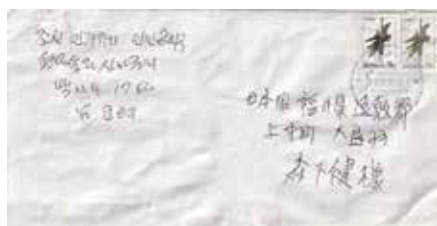
思い出がたくさん詰まっているガキの頃だけど、その中でも特に印象に残っている在日二世の同級生との思い出を紐解いてみよう。戦後十年も経たない昭和二十八年に入学した我々は今では到底考えられない五十三人もの大所帯だった。その中には男子二名、女子一名の二世がいた。今でこそ韓国は経済力も個人所得も日本のそれを大きく引き離しているが、当時は台湾と同じく朝鮮半島も我が国の占領下だった歴史があり、ワンランク下の民族との感情が大なり小なり誰にでもあった。今思い返せば土下座してでも謝りたい気持ち

でいるが、当時の彼らはどれだけ苦しい毎日を送っていたか想像するのに難くない。何しろパン喰い競争と称して縄にナスをくくりつけて競って食べ、イタドリ、グミの実などが空腹を満たしてくれた。クリスマスにはサンタさんが新聞紙に包んだ黒砂糖の塊とチューイングガムを置いてくれていた。ガムは味が無くなっても噛み続け、夜は枕元に置いて寝て翌日も噛み続けた。

そんな時代だから彼ら二世の親たちは田んぼも畑も無く、ボクたち以上に飢えていたに違いない。それを見越していいようにいじめた。柿をやると言って田んぼの泥水にまぶしたり、冷たい麦飯の上にイナゴを捕まえてきてワラで焼いて醬油をかけて食べさせたりもした。そんなひどいじめをしたけど、新潟で焼肉店をやりに始めて繁盛店に育て上げた。是非とも来いと言ってくれたので同級生六人で寄せてもらったことがある。勿論飲み食べ放題で歓待してくれ、その上プロの写真屋さんをわざわざ呼んでたくさん写真の写真をアルバムにして送ってくれた。その後家

内を連れて再び寄せてもらった時には家に泊めてくれて思い出話をしていたら、いつの間にか笑い話になって楽しい夜が更けた。京都への墓参りの帰りには、いい思い出がある筈も無いのにたびたび鳥羽谷に立ち寄ってくれ我が家にも何度か泊ってくれた。今でも年賀状は表も裏も自筆の丁寧な毛筆でした。ためたのが届き、日本人以上の気質は見習うところが多い。今思うと、当時は勿論陰湿ないじめとか悪意は無く無邪気なゲーム感覚で遊んでいたのかも知れない。どちらにしても有難う・・・そしてゴメンよ重光(辛)。

イスブツクの友達だ。又、追記しておく。と彼のお兄さんは京都で永年教壇に立たれ、鳥羽谷を題材にした、とても涙無くしては読めない感動する単行本を何冊も出版されている。もう一人は栗山(南)妙子ちゃん。目がクリッとした美人でドッジボールやソフトボールが得意だった。確か中学二年の初夏だったと記憶しているが、「地上の楽園」「衣食住の心配はなし」という当時の金日成主席の甘い宣伝文句に騙されて、新潟港から一家で北朝鮮に渡ってしまった。帰国する前日には体育館でフォークダンスでの送別会が開かれたけど、ウブなボク



ぞると北朝鮮の北端、中国との国境付近に住んでいることが分かった。夫に先立たれ、ふたりの娘さんと一緒にマヨネーズを作って生計を立てているようだ。今も元気でいるだろうか、近くて遠い異国に住む彼女にどうか元気でいてくれと願わずにはおれない。

※戦前に渡来してきた朝鮮の人々は、より日本に近い半島南部出身者が大半を占めていたが、当時韓国は帰還を許さなかったため彼らは祖国でありながら異郷の北朝鮮に帰国するしか無かった。(ウイキペディアより引用)

五十三人もいた同級生なのに知っている限りでも九人もが世を去った。その他にもふる里を後にしてから没交渉の同級生が何人もいる。この歳になると元氣な者はきつと望郷の念に駆られている方と思うし、もし亡くなっている方がいたら心から冥福を祈りたい。

今のボクはおかげ様で三人の子供、五人の孫とふたりのひ孫にまで恵まれて皆仲良く暮らしている、普段は苦勞をかけた家内と二人で少しばかりの家庭菜園を楽しむ毎日でも何と言うことは無く幸せだ。あといつまで元氣でいれるか分からないけれど、テレサ・テンの歌のように時の流れに身を任せながら、バタバタせずに穏やかな時間の中でのんびり過ごしていけたらと思っている。

最後に月並みな言葉しか思いつかびませんが、我が鳥羽小学校、並びに同窓の皆様の益々のご発展、ご健勝を切に願ってペンを置きます。有難うございました。

(大鳥羽在住)





▲素麺作り体験学習



▲素麺料理実習



▲素麺で作りました



多くの方々に支えられて

藤田 修 三

(昭和42年度卒)

はじめに、鳥羽小学校創立二五周年おめでとうございます。このような節目の年に、寄稿のお話を頂き本当にありがとうございます。十五歳の春に、高校進学のため鳥羽を後にしてから五十三年が経ち、多くの方々に支えられいつの間にか六十八歳になりました。

時々、テレビなどで若狭町の風景が流れると子どもの頃を思い出します。鳥羽は自然豊かな地域で、春は鳥羽川で魚釣り、夏は田舎で海水浴、秋は裏山で松茸採り、そして冬は大雪の中みんなと登校し、子どもながらに春夏秋冬を楽しんでいました。その反面、山に囲まれた村で「この山の向こう側にはどんな世界が広がっているのだろう」と様々な期待を抱きながら過ごしていました。私たちのクラスは、担任の高橋宗一先生がま

とめてくださったおかげで、男女共にとても仲がよく、特に同級生の男子とはよく遊んだことを思い出します。

現在は、妻・娘と奈良県の桜井市で暮らしています。桜井は日本における素麺発祥の地とされており、私自身も三輪素麺を製造・販売し、素麺茶屋を経営する会社で料理人として四十三年間勤めさせて頂きました。定年後は、特別養護老人ホームと幼稚園を併設している社会福祉施設で調理を担当しており、お年寄り子どもたちの「こちそうさまでした。美味しかったです。」という労いの声を励みに毎日頑張っています。

地域の小学校との繋がりとしては、娘が小学生の時、担任の先生より三輪素麺料理の特別授業の依頼を受け、ゲストティーチャーとして授業をさせて頂いたことがあります。また、その延長として、

江戸時代に伊勢参りをする多くの旅人に食された、幻の「黒崎夫婦（めおとーまんじゅう）」の再現を目指す授業にも協力させて頂き、子どもたちと一緒に菓子作りをしたこともありました。その際には、子どもたちがみんな協力し合い、一生懸命頑張る姿を目にし、私自身が元気を貰うとともに、学校生活を通して得た多くの学びは、その後の人生においても生きる力に繋がるのではないかと感じる機会となりました。

さて、私の人生も終盤に差し掛かっていきますが、残りの人生も人に喜んで頂けるような料理を作り続けていくことを目標に頑張りたいと思っています。また、何よりも健康で仕事を継続できていることに感謝し、一日一日を大切にしていきたいです。

最後になりましたが、同窓生の皆様にはこれからも健康で過ごして頂き、先生方には子どもたちの成長を見届けることができる尊さを感じるとともに、ぜひ今の子どもたちにも、鳥羽の地の魅力を伝えて続けて頂けると嬉しいです。

(奈良県桜井市在住)



鳥羽小学校の思い出

平 谷 靖 志

(昭和51年度卒)

私は麻生野分校と本校の両方で学び、自然と人との触れ合いをたくさん経験しました。今でもその時代のことをよく思い出します。

麻生野で生まれた私は、鳥羽小学校に入学してから最初の二年間を近くの麻生野分校で学びました。遊び仲間だった幼馴染と一緒に分校に通い、授業も遊びも毎日楽しんでいました。土曜日の午後や日曜日には山や野原で自由に遊び、広場ではテーキュー(野球)をするような、とてもものびのびとした



子ども時代でした。

年に数回ある本校への登校は、集団登校で六年生を先頭に一列に並び一言も話さず四十五分かけて登校をしました。普段遊ぶことがない六年生はともて大人に見える話すのも緊張したのですが、いつも優しく接してくれていました。この四十五分かけての集団登校は三年生からは毎日となり、雨の日も雪の日も休まず続くことになりました。この時間は前日の面白かったテレビを思い出したり、いろんなことを想像したりする時間となり、自分の中の妄想癖はこの時に育まれたのではないかと思ったりします。

今思い出しても落ち着かない小学生で、授業に集中していないことが多かったように思います。今でも思い出すのは、お昼の一二時前、小浜線を九両編成の急行大社がゆっくりと通り過ぎるのを必ず見ていたことです。いつも高橋先生の授業でしたが、後ろを見ないと列車が見えないため、時間が近づくとそわそわしだし、後ろをキョロキョロ見て、九両の列車が視界から消えるまで、先生に背を向け

ずつと見ていました。この件を含め、臨時で来られていた女性先生のスカートめくりをするなど、相当先生には迷惑をかけたのですが、一度も怒られた記憶はありません。

幼少期は人格の基礎を作ると言われています。鳥羽小学校の頃に、自然や友達や色々な年代の人と触れ合うことで、今の自分の多くが形作られたと思っています。東京で暮らしていても何とかがやっていたのも、この幼少期の豊かな経験のおかげだと感じます。分校は廃校となり跡地には地域の施設が建って、昔の秘密基地だった朽ちた大木は撤去されてしまいました。が、時々帰省すると人のぬくもりや自然は何も変わらなくて、自分のルーツは確かにここにあると実感します。

現在 OpenAI をこのように企業の



白い箱はランドマーク

長 谷 吉 洋

(昭和63年度卒)



中で使用し、業務を効率化するか、
により企業に新たな価値が提供できるかという仕事を毎日のように進める中で、小学生にとつて
が及ぼす影響について考えることもあります。先生が
にになり、友達との会話が
との会話になった時に、どのような大人になるのだろうか。こういう時代だからこそ、小学校時代にしかできない、鳥羽小学校でしかできない体験を今の小学生にも少しでもしてもらいたいと思います。

(東京都足立区在住)

新幹線の車内でこれを書いていきます。

東海道新幹線の下りに乗る時、米原に近づくと、心がいつも不思議

議と体の右側へと傾いていくのを感じます。冬の田畑が雪に覆われる景色は、この感覚を一層強くします。



帰省する際、車で鳥羽谷を横切り田島方面へ進む時や、小浜線の車両に揺られながら敦賀へ向かう時も、私の意識は右側へ自然と向かいます。そこには、あの白い箱を探す期待があります。

あのコンクリートの箱は、時に塗り替えられ、細かな修繕を受けつつも、周囲の地形が変わろうとも、白い姿で鳥羽谷の南を見つめ続けています。

六年間、毎朝長江からこの白い箱まで歩いたものです。須崎橋を渡って見えてくると安心感を覚え、そのままその口に吸い込まれていきました。休日、海士坂方面の友達の家遊びに行く際も、視界の右側に白い箱を置きながらペダルを漕ぎました。夏休み、田島への道すがら、白い箱は視界の後方に移動しながら私の気持ちを引き締

めてくれて、夕方の帰り道、左側に見つけると、心もペダルも軽やかになりました。

白い箱に通わなくなつてからも、自転車、バイク、列車、自動車と移動手段が変わっても、その感覚は変わりません。

保育所から始まり、中学、高校と、同じクラスメイトとの長い付き合いがあるため、この白い箱には、様々な人々との関わり、先生の言葉、授業、宿題、数え切れない記憶が詰まっています。

若狭を離れて何十年が経ちますが、公私にわたり、ふとした瞬間に頭の右上にあの白い箱が浮かびます。そこから記憶を辿り、自分の内面を探っていきます。どんなに高度で複雑な仕事でも、あの白い箱の中での人との関わり、思考、選択、行動と大きな違いはないことに気づきます。

白い箱の窓から見ていた社会に出た今も、白い箱は私のランドマークとして機能しています。

車内の前方の掲示板に、白とオレンジで「次は 新大阪」と表示されました。私の白い箱は遠く右後方に移動しました。

(神奈川県鎌倉市在住)



鳥羽小学校での思い出

中村 紗也 茄

(平成20年度卒)

今回、同窓会監事の武田さんより同窓会報のお話をいただき引き受けさせていただきました。

初めて小学校の制服を着たときは、ドキドキしながらもこれからの学校生活にワクワクして入学式を迎えた事を覚えています。私達の学年は男子八人、女子十五人の合計二十三人の男子よりも女子の方が多いクラスでした。

授業の一環で若狭町の特産物の梅を使った料理を自分たちで考えて作ったり、校外学習で小浜へ和紙作りに行ったりと地元の特性を

生かした経験をたくさんさせてもらった事も良い思い出です。また、昼休みには友達と一輪車に乗って遊んだり、一、六年生合同の縦割り遊びで鬼ごっこや缶蹴りなど学年を超えて遊んだりもしました。校舎の前にあるジャングルジムと滑り台の複合遊具「鳥羽ぞう」も懐かしく感じます。校庭のバックヤードの虹も思い出の一つになります。私が四年生の時に、当時一年生だった弟のPTA委員をしていた父が奉仕活動の一環で描いたものです。それから毎日、虹を眺めながら学校生活を送りました。あれから十数年、バックヤードの虹は今にも消えそうな状態に。昨年、高橋校長先生の元で虹が鮮やかに蘇り嬉しく思いました。これから虹は子供達を見守っているのだと。



小学校の担任であつた内藤先生、山本先生、玉井先生、一瀬先生には大変お世話になりました。心配をかける事も多かったと思いますが、寄り添ってくださりありがたかったです。

現在、私は保健師の資格を取るべく愛知県の学校で勉強に励んでいます。看護学校を卒業後、看護師として働く中で健康を維持し病気を予防する事の大切さを感じて進学することを決めました。卒業後は若狭町に戻る予定です。看護学校進学、就職で地元を離れていましたが、帰省する度に自然が豊かで温かみのある地元は私にとつてホッとできる場所となつていきます。ここからは、保健師として地域の皆様に寄り添っていけたらと思つていきます。

(愛知県名古屋市長在住)



鳥羽への思い

長谷部 心優

(平成27年度卒)

今回、同窓会報の原稿の依頼を受け、過去の会報を何冊か読ませていただきました。鳥羽小学校での思い出を書いていらっしゃる方が多く見られました。私は小学生のころ何をしていたのか、楽しかったこともたくさんありますが、悪いことをした記憶のほうに鮮明に覚えていきます。私が鳥羽谷で過ごしたのは中学校までで、高校は嶺北に進学し学生寮での生活を送りました。今は東京の大学に通い、都内で一人暮らしをしています。

私は自分が思っていたより鳥羽が好きだったようで、実家から出て自由な生活が待っているぞ、と意気込んで高校一年生で福井市内の寮に入り、たつたの一週間でホームシックになつて泣きながら帰ってきました。大学生になつた今でも、上京したての頃は感動した都会の夜景が、定期的に実家に帰らないと疲れが溜まり心が荒んで、夜になつても明かりが消えないビルの群れに嫌気がさしてきます。都会に住むことになんとか憧れを抱いていましたが、都会での暮らしは便利ではあるものの私には合っていないものでした。

下宿先から実家までは四時間ほど。東京から東海道新幹線に乗って、米原で特急に乗り換え、敦賀から小浜線に乗り大鳥羽に近づくにつれなんとも言えない安心感を覚えます。鳥羽谷は空気が本当に澄んでいて、外で深呼吸するだけで癒されます。空気が綺麗だから星空も綺麗に見えますし、何より散歩をするのが最高です。私のおすすめの道は朝霧の横にある田んぼの真ん中の道です。実家に住んでいるときはわざわざ散歩なんてしたことがありませんでしたが、今は帰省して一日に二回散歩に行く日もあります。東京でもたまに近所を散歩するのですが、近くにあるどの公園にも、「ボール遊び禁止!!」と大きく書かれた看板が建てられています。住宅地にある公園なので仕方ないのかもしれないが、遊びも制限されてしまうのは少し悲しいです。子どもの頃は公園でのボール遊びはもちろん、家の前の道路や山の中、川の中など色々なところで遊んでいました。自然に恵まれた環境の中でのびのびと育ててもらったんだと外に出て初めて実感しています。鳥羽から出てから色々な人と出会いましたが、スキーができる山があり、畑も田んぼもあつて、コウノトリが飛んでくる小学校なんて聞いたことありません。

帰つてもきてもいい故郷があるというのはいつも心の支えになっています。鳥羽を守ってくださいっている皆さん、本当にありがとうございます。そして、遠くからいつも見守ってくれている家族に感謝したいです。

(東京都足立区在住)



11/15(水)

[illegible]

外
惠
德
永
興

コンクリート蓋を開けると
タイムカプセルが…児童はモ
ニュメントの穴から覗き込み
ました。



タイムカプセルをつくり上げ、
出てきたカプセルをサンダー
で切断！ 児童も興味津々で
す。



タイムカプセル内には25年後にあてた手紙や、当時の児童作品、教科書などが入っていました。手紙は大鳥羽郵便局さんが配達してくださいました。

最後は檜鼻ふじよ副会長からのあいさつ、そして集合写真を撮りました。



タイムカプセルの
内容に見入る児童、
そして当時の先生……

学校の近況

【学年別児童数】

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
18	10	24	10	17	17	96

【集落別児童数】

大鳥羽	上黒田	麻生野	海士坂	三生野	無悪	三田	小原	南	山内	持田	長江	朝霧	校区外	合計
	3	13	10	10	6	8	2	0	4	6	12	4	3	96

【職員構成】

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	養護助教授	講師	学習支援員	校務員	合計
1	1	8	1	1	1	1	4	1	19

【令和5年度 教育目標】

自ら学び 共に たくましく生きる子

- ・学ぶ意欲を持ち、対話的に学習をすすめる子の育成
- ・自分も友だちも大切にする子の育成
- ・健康な体づくりにチャレンジする子の育成
- ・信頼される学校づくり

【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・全国学力学習状況調査・教育懇談会・PTA 総会
5月	鳥羽リンピック
6月	前期校内研究会・家庭地域学校協議会・プール開き・避難訓練
7月	教育懇談会・終業式・5年自然教室
8月	始業式
9月	起震車体験
10月	町陸上記録会・修学旅行・秋季遠足・校内特別支援教育研究会・マラソン大会
11月	町音楽会・就学時健診・後期校内研究会・同窓会タイムカプセル開封
12月	県学力調査・教育懇談会・PTA 研修会・終業式
1月	始業式・スケート教室〈中〉
2月	学習発表会・感謝の会・家庭地域学校協議会・新1年生体験入学・スケート教室〈高〉・6年生を送る会
3月	卒業証書授与式・終業式・修了式



令和5年度 鳥羽小学校同窓会決算書

令和6年2月末現在

【収入の部】

(単位:円)

	5年度決算額	備 考
会 費	408,790	1,000円×416戸 (振込手数料1,210円)
協 力 金	9,100	職員700円×13人
寄 付 金	15,000	郵便局長、同窓会長より
雑 収 入	1	貯金利息
前年度繰越金	34,964	令和4年度より
合 計	467,855	

【支出の部】

(単位:円)

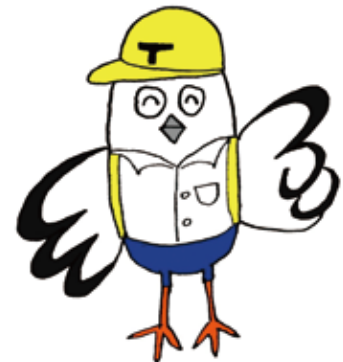
	5年度決算額	備 考
会 議 費	8,268	役員会, 理事会, 編集委員会
事 務 費	13,297	印刷経費, 通信費
事 業 費	418,865	
会 報	103,400	同窓会報第33号
教育振興費	239,770	写真保存用ハードディスク, 遠隔授業用機材, CDラジオ, 学校図書管理ソフト等
125周年	25,695	掘り起こし作業代, プルーフシート, 手紙郵送料, チラシ印刷費
助 成 金	50,000	スケート教室バス代補助
雑 費	5,000	地区区長会へ
次年度繰越金	22,425	
合 計	467,855	

令和5年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

役 員	集落等	氏 名
会 長	海土坂	高 橋 繁 応
副会長	大鳥羽	檜 鼻 幹 雄
〃	大鳥羽	檜 鼻 ふじよ
顧 問	三 田	小 林 銀右エ門
〃	三 田	福 谷 洋
〃	大鳥羽	松 宮 保 彦
〃	三 田	岡 本 嘉 樹
〃	上黒田	澤 本 啓 一
〃	海土坂	竹 内 小太衛

役 員	集落等	氏 名
顧 問	小 原	岩 本 守 博
〃	無 悪	竹 内 一 善
〃	無 悪	高 橋 彰 男
幹 事	上黒田	森 口 正 規
〃	三 田	佐 野 麻理子
監 事	南	若 新 確 也
〃	大鳥羽	武 田 佳 子
事務局	小浜市	松 宮 誠

役 員	集落等	氏 名
理 事	大鳥羽	鳥 羽 司 武 田 信 幸
〃	上黒田	澤 和 弘 山 口 直 樹
〃	麻生野	中 島 博 和 三 宅 翔
〃	海土坂	高 橋 衛 橋 本 潤 一
〃	三生野	吉 村 忠 康 藤 内 寿 博
〃	無 悪	岡 野 学 北 川 和 宏
〃	三 田	北 川 諭 香 川 奈 々
〃	小 原	田 辺 篤 範 島 津 佳 克
〃	南	岩 谷 晴 夫 田 中 文 明
〃	山 内	中 畑 則 雄 高 橋 歩 美
〃	長 江	清 水 健 二 枅 谷 絵 理
〃	持 田	野 瀬 崇 弘 原 田 正 美
〃	朝 霧	鳥 羽 角 栄 小 川 平 二



編集後記

令和六年元日おとそ気分の中、能登半島地震、関連し航空機事故と自然の猛威災害を目の当たりにし、身の引きしまる年明けとなりました。

さて、鳥羽小学校創立百周年記念事業として埋設されたタイムカプセルが児童の皆さん、先生方、同窓生の皆様と立ち会いのもと二十五年の月日を経て十一月十五日に無事開封されました。児童の皆さんのキラキラした眼差し、古い写真や教科書に興味深く見入っている姿に先人の思い、親から子、孫へと受け継がれていく絆を感じました。

今年もご多忙の中、寄稿いただきました会員の皆様、編集にご協力頂きました先生方、編集員の皆様方に感謝申し上げます。

空にコウノトリが舞い、のどかな鳥羽谷がいつまでも続きますように願っております。

(檜鼻ふじよ 記)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



生活科での町探検



地域ボランティアによる読み聞かせ



鳥羽リンピック応援合戦



電車に乗って秋季縦割りの遠足



放課後子ども教室でのスライム作り



起震車体験



山内かぶらの収穫体験



自然教室でのシーカヤック



若狭町陸上記録会



縦割り読み聞かせ活動



コウノトリがグラウンドにやってきた



こども自転車全国大会出場



ご当地バーガープロジェクト試食会



デジタル図書を利用した朝読書



プール清掃